

愛護センターだより

発行:敦賀市少年愛護センター

住所:敦賀市東洋町1番1号

電話:0770-23-0189 Fax:0770-23-0523

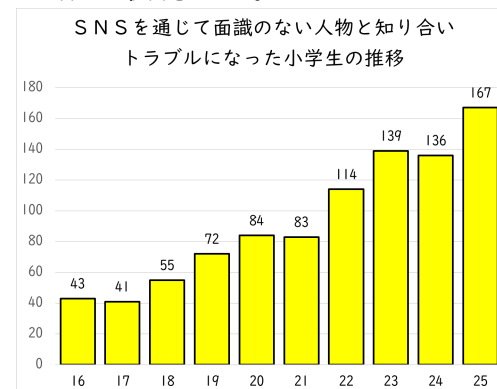
『青少年健全育成都市宣言』都市:敦賀市

SNSトラブル

小学生でもスマホを持ち歩くようになり、見知らぬ人とのトラブルや事件に巻き込まれるケースを耳にするようになってしまいました。警察庁の資料によると、2025年にSNSを通じて面識のない人物と知り合って、トラブルになったという18歳未満の子どもの数は1566人(そのほとんどの1529人がスマホによるもの)。その内訳は、高校生が579人、中学生が758人、小学生が167人。ここ10年で最多、前年から2割も増加しているという結果となっています。さらに、小学生のトラブルは年々増加しており、非常に心配な状況です。



東京都の調査となりますが、小中高校生の子どものスマホ等を持たせている保護者2000人にとってアンケートによると、「子どもがSNS等で知らない人とやりとりしたことがある」との回答は全体で20.4%。そのうち、音声通話やビデオ通話をしたという人が42.4%、ゲーム内でチャット等をしたという回答は45.8%。トラブルには至っていないものの、知らない人につながっているケースは思いの外多い感じです。親が気づいていないところで、子どもが危険な人物とつながっていることは十分考えられるので、実際はもっと多い可能性があります。



子どもの方も、顔もわからない知らない人でも、直接対面しているわけではないので大丈夫!という油断があるのかもしれませんが、しかし、言葉巧みに巧妙な手口で、大人でも被害に遭っていることを考えると、「直接対面しないから大丈夫」とは言い切れない時代です。



生まれた頃から身近にスマホがあり、そのスマホをいじっている子ども達。スマホに慣れ親しんでいて、その便利さ・操作の楽しさをよく知っていれば、早く自分専用のスマホを持ちたいと思うのは仕方がないこと。ただ、その使用するためには、使い方のルールやマナーをしっかり守っていないと、思わぬ事態になってしまいます。好きなことに夢中になりやすい子ども達ですから、周りがある程度コントロールする必要があります。スマホがない生活が不便になりつつある世の中、使わず過ごすことが難しいからこそ、自分にプラスになるような使い方を家庭でしっかり教えていかなければなりません。



セクストーションって知ってる?

そのSNSトラブルの一つが、セクストーション。セクストーションとは、「Sex(性的)」と「Extortion(ゆすり・脅迫)」を組み合わせた「性的脅迫」を意味する造語で、ネットで知り合い、親しくなったのちに「お金」が目的で裸の画像などを要求する犯罪のことで。手に入れた裸の画像などを「拡散するぞ!」と脅してお金を要求するというのが、その手口。一度要求された金額を払えば済むのかというと、そういう訳でもなく、何度も「SNSでばらまく」「親や学校に送りつける」と、お金を要求し続けるそうです。



また、このセクストーション詐欺の標的になるリスクは日本が世界1位だということを、セキュリティ企業(ノートンライフロック)が2025年4月に発表しています。これは、国民性なのか、「被害に遭ったこと、裸の写真を送ってしまったことを知られたくない」「騙されたことが恥ずかしい」と思うからかもしれません。「令和7年版犯罪白書」によれば、性的な被害に遭った人のうち、警察等の捜査機関に被害を届け出た人は25.0%。こうした被害に遭っても届け出る割合が低い…つまり、捜査されないとなれば、日本が狙われてしまうことも頷けてしまいます。

さて、その犯行の手口ですが、Instagramや英語学習アプリ・出会い系アプリなどで物色し、狙いを定めるそう。そして被害者に近づき(もちろんSNS上で)、DM等でゆっくりと親しくなって、言葉巧みにLINEや携帯電話番号を聞き出し、連絡できるような状況にしていくそうです。そして、顔や体の一部の画像や動画を送るように求められ、「モデルみたい!」とほめたり、「自分も写真を送るから送り合いをしよう」と誘ったりと、さまざまな方法で性的な画像や動画を求めます。頃合いをみて、「この画像をばらまかれなくなかったら、電子マネーを2万円分送れ」等々の脅しに移行していくわけです。



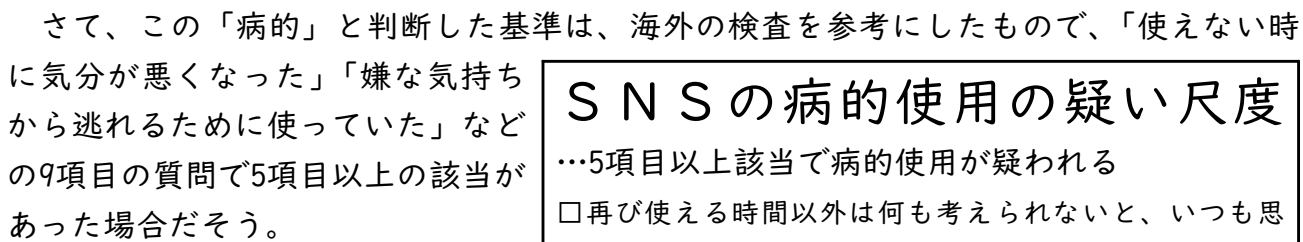
子ども達がセクストーションの被害を防ぐためには、とにかく画像の送信をさせないことが一番です。AIによるディープフェイクによって性的な画像を作られる危険性考えても、個人情報SNS上にアップすることは勧められません。

子ども達は、ただでさえ親に心配をかけたくないという思いがありますから、自分が困っていることについては口をつぐむもの。子どもに接している大人が、子どもの体調不良や心の不調、普段と違った行動(セクストーションに限って言えば、お金が絡んでくるので、お小遣いを欲しがるときの金銭的な行動)に気づいて話を聞いてあげることが必要です。間違っても、「何かあったら取り上げる!」と言い聞かせてしまえば、困ったことがあったときに子どもは何も言わなくなります。「こんな便利で面白いものを取り上げられたら嫌だ」というわけです。困りごとが起こる前に、「こんなことがあるから気をつけよう」「困ったことがあったら、一緒に考えていこう」というような会話が家庭内で大事になります。



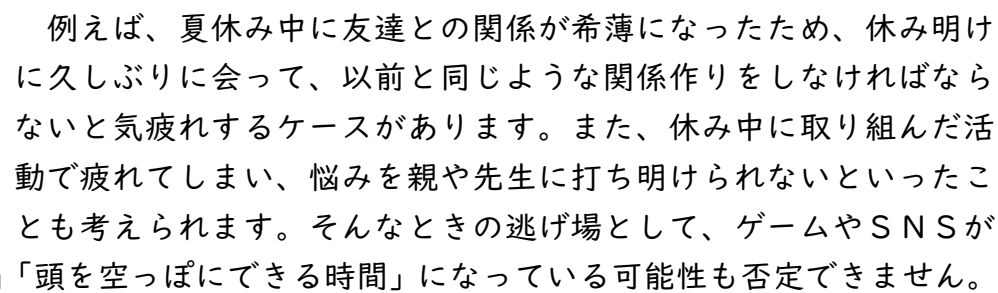
もしもの場合は、専門機関の相談窓口 性犯罪被害相談電話「#8103」や「警察相談専用電話 #9110」への相談を!

神奈川県国立病院機構久里浜医療センターが、SNS使用について無作為で調査票を郵送して返信があった10～80歳の男女4650人の回答を分析しました。その結果、SNSの使用が「病的」だと思われる10歳代男性7.1%、女性7.5%とのこと。ちなみに、20歳代で男性4.8%、女性5.0%と10歳代に比べてやや低い値ですが、30歳代以上の各年代は0～1%台という結果ですから、10歳～20代の数値は、かなり突出していて、SNS依存が深刻だということがうかがえます。



さらに、「病的」と判断された人の内、27%がSNSの使用を巡って「家族に暴言を吐いたり、暴力を振るったりした」と回答。逆に、「家族から暴言を吐かれたり、暴力を受けたりした」も19%。「30日以上学校を休んだ」は6%、「6か月以上続けて自宅に引きこもっていた」は5%。と、深刻な事態を招いているようです。

ただ、孤独や対人関係への不安などがあるからSNSへ依存してしまう…という背景もあるとか。ネット利用が低年齢化していく中、子どもがストレスや不安を抱えていないかより丁寧に目配りをしていかなければならないようです。



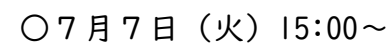
とは言っても、子どものネット使用が増えることは、保護者にとっては不安材料となります。でも、大切なのは、「なぜこんなにもネットにのめり込んでいるのだろう？」と子どもの立場で考えることかもしれません。孤独感や自信の低下、不安…そんな理由が見えたならば、それに対応していく。そうした子どもの気持ちを聴こうとする姿勢が、子どもの安心につながるのではないのでしょうか。ネット使用以外にも、安心できる居場所作りを心がけ、家族の団らんやスキンシップなどの活動を普段より多くできるようにすることが大切なかもしれません。

- …5項目以上該当で病的使用が疑われる
- 再び使える時間以外は何も考えられないと、いつも思っていた
- より長い時間使いたいため、いつも不満を感じていた
- 使えない時に、しばしば気分が悪くなった
- 時間を減らそうとしたが、うまくいかなかった
- 使いたいため、他の活動をいつもおろそかにした
- 使用のため、いつも他者と口論をした
- 費やした時間について両親や友人にいつも嘘をついた
- 嫌な気持ちから逃れるために、しばしば使っていた
- 使用のために家族らとの間に深刻な衝突があった

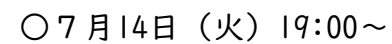
青少年への愛のひと声活動……補導日誌から

○7月3日(金) 17:30~

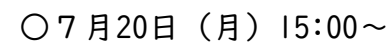
量販店のゲームコーナーの方が「気になる子やよくないことをしている子には、声かけしています」「最近男子中学生がふざけて大声を出したり、おちゃらけたりすることがよくある」とのこと。ゲームコーナー内より外の駐車場がよくないとの情報を聞き、駐車場を見ると、煙草の吸い殻が端の方に多数落ちていた。何かが燃えたような燃えかすのようなものもあった。駐車場の端は死角になるので、要チェックかなと思った。



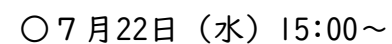
三島公園で小学生が大勢で遊んでいた。公園内に自転車が乱雑に停めてあるため、遊ぶ場所が狭くなり、危険であると思った。サッカーをしていた男子5～6人、ボールが道路に出ると、かけだして取りに行こうとしていたので、制止させた。車の往来も多いので、ボールが出たときは慌てず、車に気をつけて取りに行くことなどを注意した。



駅西広場公園でスケボーをしている15～17歳の中学校を卒業して働いている少年達4人に声かけ。最初は警戒されたが、笑顔で話しかけ、スケボーについて聞いたところ、「スケボーができる場所がほしい」と話す。金ヶ崎緑地にある練習場はどうなのか聞いたが、あそこは見てもらえる人がいないから寂しいとのこと。運動公園にスケボーパークができるのを楽しみにしているようだった。「人も通るから気をつけて遊ぶよう」話したところ、「ちゃんと人に迷惑をかけないようにやっています！」と元気に答えてきた。あまり遅くならないよう声掛けして終了。



量販店に新しくできた麻辣担の店に高校生が集中していると聞き、見に行った。ご飯時ではなかったためか他のお客さんの迷惑になるほどの高校生の数ではなかった。



松原海水浴場では中高生の自転車が多く、ほとんどが鍵をつけたまま。財布、スマートフォンが入れっぱなしの自転車もあった。ちょうど持ち主が来たため、「盗られないか心配、大丈夫か」など声かけしたが、「大丈夫」と返答あり。

